



特定非営利活動法人 権利擁護 トーチ

～第5回高齢者の人権学習会のご報告～



第5回高齢者の人権学習会「身寄りのない人の支援を考える」が9月1日(日)昭和生涯学習センターにおいて開催されました。折しも台風10号の影響で開催が危ぶまれ、15名の参加と少なくなったのは残念ですが、なんとか開催できました。参加された皆様にお礼を申し上げます。

第一部は名古屋市成年後見あんしんセンターの林浩主任により「身寄りのない人に関する権利擁護支援のガイドラインについて」と題して講演をいただきました。同センターが3年前に入所施設、病院、相談支援機関を対象に実施した調査をもとに、身元保証人に求める役割、身元保証人がいない場合の対応、身元保証団体を紹介する際の基準、身寄りのない人の支援に関するあるべき姿について説明がありました。本年4月に示された内閣府の「高齢者等終身サポートサービス事業者のガイドライン」についても紹介があり、今後身寄りのない人が増えること、公的保険制度との整合性から従来の「身元保証等サポートサービス」という表現を改め「終身サポートサービス」という表現にしたこと、身元保証団体の料金体系もバラバラで監督官庁もないため事業者のまとまりもできそうにない、「なごやかエンディングサポート事業」の申し込みが多すぎて受付を停止しているなどのお話を伺いました。

第二部は参加者全員による意見交換を行いました。

出席者からは情報不足により身元保証団体の選択に困っているとか、キーパーソンがいない場合の金銭管理や医療同意の取り方に苦慮しているとか、後見手続きにつなぐポイントがわからないなどの意見があり、それぞれに参加者から参考となる意見をいただきました。例えば、医療同意はお元気なうちにあらかじめいただき、随時見直しをしていること、後見申し立てが困難な場合、本人申し立ても可能であること、病院によっては入院時に保証会社に参加しており身元保証は必要がなくなりつつあること、施設によっては入所に際して特定の身元保証団体と契約させていることなどのお話がありました。

なお、今回は初めて意見交換の時間をとったことで本音がお互いに聞けるという成果がありました。参加者からの評判も上々でした。一方、課題としては、学習会の参加者が年々少なくなっていることです。今後の開催方法については、より実りのある形にするための方策を考えていかなければならないと考えています。

～身寄りのない人の支援のこれから～

最近、新聞やテレビで身寄りのない人の支援の特集が組まれたり、「老後ひとり難民」(幻冬舎)、「ルポ無縁仏」(朝日新聞出版)という本が話題になっているそうです。

国や自治体も遅ればせながら対策に乗りだそうという機運がうまれつつあります。国はまずは事業者のガイドラインを示すところからのスタートです。まだまだ時間は要すると思いますが、身元

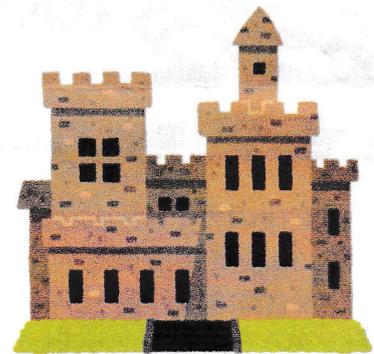
保証団体に対する具体的な規制が必要ではないでしょうか。そのうえで、身元保証人制度の立法化、日常生活支援事業の拡充を通じて公的サービスとして位置付けることを望みます。

自治体でも取り組みは進んでいます。静岡市では全国に先駆けて認証制度がスタートしました。認証の要件として死因贈与を禁止したところほとんどの事業者が辞退したそうです。認証制度の普及には紆余曲折はあると思いますが自治体独自で取り組める規制の第一歩になると思います。

名古屋市におけるエンディングサポート事業も地域社会の課題である身寄りのない人の終身にわたる支援に行政が正面から関わっていく第一歩になると思います。いつまでも身寄りのない人の終活を何らの規制も及ばない身元保証団体まかせにしている良いのでしょうか。行政が責任をもって「老後ひとり難民」を支える仕組みが必要かと思います。名古屋市が全国に先駆けてその仕組みを作っていくことを期待しています。(K.N)

～支援員のひとり言 IV 久々の海外旅行とそれから～

6月末から7月初めイギリス8日間ツアーに参加した。久々の海外旅行である。セントレアからイギリス・マンチェスターまで香港でのトランジット含めほぼ丸一日かかる長い道のりで前期高齢者末期のわが身には堪える。湖水地方1泊、エディンバラ2泊、ロンドン2泊の行程でエディンバラからロンドンへは待望の鉄道旅である。この頃のイギリスは夜の9時ころまで明るい、白夜である。北部のスコットランドは、朝晩ダウンがあつていいほどの気候。エディンバラの夜は本場のスコッチウイスキーを味わい、ロンドンではパブにも。エディンバラ城や大英博物館のロゼッタ石など見どころはたくさんあつたがどこも観光客でにぎわっている。イギリスは基本、博物館や美術館が無料で、もっと行ってみたいところがたくさんあるが、ツアーの場合はやむを得ない。



イギリスから帰ってきて、手術を受けることになった。咳をすると下腹部にしこりを感じたので、かかりつけ医に紹介状を書いてもらい、病院受診。鼠径ヘルニアと診断される。足の付け根部分にできるふくらみで、お腹の中から腸や脂肪組織など出てきてしまう、いわゆる脱腸である。薬や生活改善では治らない。主な原因は老化、治療法は手術しかないと言われ覚悟して8月初旬手術、無事終了するが、1か月ほどは無理すると言われ家に閉じこもりがちになる。入院中、医師からは、横になってばかりいると良くないから動け動けと言われるが、傷口の痛みから思うように動けない。5日間の入院だったが大腿部の筋肉が落ちていると自分でもわかるくらいである。まさにフレイルである。フレイルとは、加齢によって気力・体力が徐々に落ち、要介護状態の一步手前の状態のことを言うが、早く気付いて予防することで、健康な状態に戻ることができると言われる。頑張りすぎると鼠径ヘルニアが再発するのではないかという恐れを感じながら家のまわりのウォーキングの距離を少しずつ延ばしている現在である。筆者もそろそろ後期高齢者、体力が衰えないうちに行きたいところへ行き、やりたいことをやっておきたい気分になっている今日このごろである。

余談になるが、NPO トーチの関心領域について言うと、この病院では入院時身元保証人を求められなかった。病院が保証会社と契約し医療費が滞った場合、この保証会社が支払いを行い患者に未払い医療費の請求を行うシステムをとっている。(K.I)

(あとがき)

先日、ご自身が2週間程度の海外旅行を予定しているが、特養入所中の母親に何かあったら心配でということで支援の問い合わせがありました。早速、特養に伺いご本人様、娘様と面会し旅行期間中のみの短期契約となりました。想定外の依頼でしたがお役にたてて何よりでした。